

“一人1台端末”の日常的な活用の充実に向けて ～全国の事例から・端末活用に向けたポイント～

令和3年9月27日

◆ 端末の活用を前提として、自分の意志で判断する場面を設定しましょう

一人1台端末を使いこなすことを前提とすると、「画像や動画を公開しない」、「SNSで発信してはいけない」といった「〇〇しない」ではなく、「どうしたらリスクを減らして上手に活用できるか」という“活用”を意識した指導が必要となってきます。「こうした指導をどのようにしていけば良いのか、事例が知りたい。」という声が聞かれることから、今回は、全国での取組事例を紹介します。

柏市立手賀東小学校の取組



手賀東小 タブレット端末の使い方 “校長先生との約束”

5つの約束

- 姿勢をよくする(30cm以上はなしてみよう)
- 30分に1回は目を離す(20秒以上遠くを見よう)
- 寝る前は使わない(寝る1時間前には終わらしましょう)
- 目を大切にす(目が乾かないようにまばたきをしよう)
- ルールを守って使う(上手に学習に役立てよう)



みんなの教育技術

タブレット端末の配付時に、「タブレット端末を上手に使うための約束」について考えました。校長先生が子供たちにタブレット端末導入の経緯などについて語り掛け、その後、使い方に関する学習を行いました。下記の文部科学省のサイト内の動画を視聴し、普段のスマートフォンやゲーム機などの使い方について振り返り、学校や家庭でタブレット端末をどのように使っていけば良いのかを考えたり、話し合ったりしました。

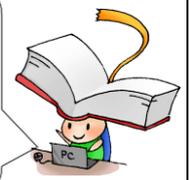
【考えるポイント】 (※ 例については、下記のサイトの板書計画(例)を参考に記述)

- 端末を大切に使う
 - (例)・タブレットの上にものを落とさないように注意する ・机の上を整頓しておく習慣をつける
- 端末を安全に使う(学校・家庭)
 - (例)・IDとパスワードは人に教えない ・「動画を見るとき約束」を守る
- 端末を上手に使う
 - (例)・いろいろなことを調べる ・考えたことを発表する



柏市立手賀東小学校

これまでの情報モラル教育で行っていた、単に「〇〇しない」と周知するだけの指導では、子供たちが「自分の行動にどのようなリスクがあるのか」を考える機会を奪うことになり、子供たちの“リスクを考える力”の育成にはつながっていきません。画像や動画を公開することやSNSで発信することのメリットについても目を向けながら、どのようなリスクがあるのかを考えさせることが上手な活用につながっていくポイントです。



【引用】写真：千葉県柏市立手賀東小学校のWebサイト 「タブレット端末の使い方」：みんなの教育技術WEBサイトを参考に作成

◆ 情報モラルの指導の参考となる資料 ～文部科学省のサイトの紹介～

令和2年度追加版の「情報社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～」では、「情報モラル教育に関する指導の工夫」の中で、これまでの情報モラル教育の課題を踏まえ、今後の指導に向けた改善点が示されていますので、参考にしてください。

- #シナリオスライド #モデル指導案 #板書例
- #ワークシート例 #アンケート例 #カード教材



⑩学習用タブレットの上手な使い方

◆教材のねらい◆ 対象:小学1年生～小学4年生
GIGAスクール構想により、多くの学校で1人1台端末や高速大容量の通信環境が整備されるが、子供たち一人一人が学びのツールとして主体的に活用していくためには、学校や家庭でのタブレットなどの端末の適切な使い方やIDやパスワードの適切な管理について子供たち自身に考えさせる必要がある。



本教材では、学校や家庭での上手なタブレットの使い方について、これまでの自身の使い方を振り返りながら考えさせる。